グラフにみる

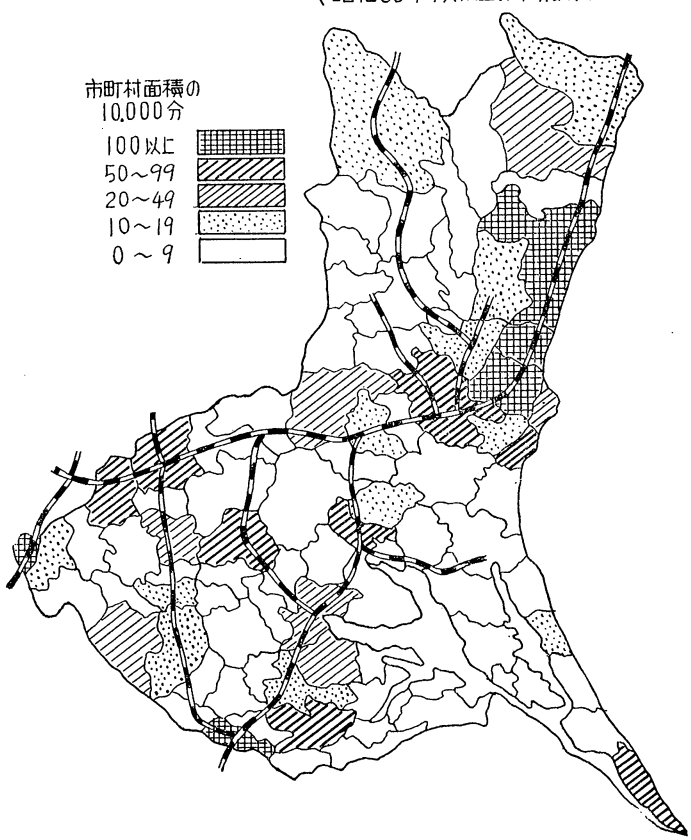
事業所敷地としての土地利用率

すでに6月号に公表しました，工業用地・用水の調査結果による市町村別の事業所敷地（従業者4人以上の製造業を営む事業所）の面積が，市町村の地理的面積の1万分のいくつにあたるかを計算し，その分布を画いてみました。

この結果，本県としては，1万分の28.2を事業所敷地として利用しており，利用率が1万分の100以上になつている市町村は，日立市336.6，勝田市360.0，古河市292.4取手町1050，東海村 101.0であります。このうち古河市と取手町は，地理的面積が少ないために高率を示しているようですが，その他は工業化の進んでいるところのようです。

利用率が50～99のグループには水戸市，石岡市，下館市，結城市，竜ケ崎市，大洗町，波崎町，真壁町が入つております。このうち，大洗町と波崎町は，水産物の加工関係，真壁町は石材の採取及び加工関係で比較的高率を示しているものと思われます。いずれにしましても，交通便利なしかも工業用水に恵まれた地域に工業が発展していることがよくわかります。この地図の白い部分は極めて工業用地としての利用が低い市町村でありますがこれらの多くは，山岳部あるいは純農村地帯のようであります。さて本県の総合開発事業が完遂したとき，この地図はどのように塗り変えられるでしょうか。（生井）

事業所敷地としての土地利用率
（昭和36年4人以上の事業所）



★統計資料案内★

◁不定期刊行物▷

資料名	調査年刊行年	発行者
土地・人口		
フランスにおける雇用予測の研究	37 年	厚生省人口問題研究所
産業別就業人口の年令構造の変動	〃	〃
都市労働力人口の食慣習構造	〃	〃
国勢調査報告　1％抽出	35 年	総理府統計局
わが国の人口集中地区	〃	〃
商工		
綿スフ織物統計年表	36 年	日本綿スフ織物工業連合会
35年工業統計調査集計結果	37 年	通産大臣官房調査統計部
製造事業所における自動車保有状況	35 年	〃
工業統計50年史	37 年	〃
経済		
国民経済計算調査委員会報告	37 年	経済企画庁経済研究所
税務統計書	35 年	関東信越国税局
法人企業投資予測統計調査	37 年	経済企画庁調査局
家計調査参考資料	〃	総理府統計局
その他		
産業界の現状と見通し	1962年	富士銀行調査部
科学技術研究調査報告	36 年	総理府統計局
地方行財政調査資料	37 年	地方行財政調査会
都道府県		
愛媛県政	1961年	愛媛県
奈良県民所得	35 年	奈良県
県民所得推計結果報告	〃	山形県
熊本県勢要覧	36 年	熊本県
経済情報	1962年	東京都経済局
福岡県勢要覧	37 年	福岡県
大分県勢の展望	37 年	大分県
群馬県鉱工業生産動向	36 年	群馬県総務部統計課
県民所得推計報告書	35 年	広島県
熊本県統計年鑑	35 年	熊本県
県民所得	〃	秋田県
学校教育統計書	36 年	埼玉県
商業統計表	35 年	埼玉県
輸出産業生産実態調査結果	〃	〃
工業統計表	〃	〃
労働情勢	36 年	〃
京都市勢統計年鑑	〃	京都市
京都府治要覧	1961年	京都府
工業生産実態調査報告	36 年	神奈川県
県民所得推計報告	35 年	鳥取県
労働力実態調査報告	〃	神奈川県
埼玉の農林業	37 年	埼玉県
市民所得推計結果報告	34 35 年	横浜市
主要産業小売商業の総合分析	37 年	東京商工会議所
富山県勢要覧	〃	富山県
県民所得推計結果報告	35 年	佐賀県
京都市市民所得	30～35年	京都市行政局
本県の資金循環構造	37 年	山口県
農林水産基本調査結果	35 年	大分県
福井県県民所得	37 年	福井県
宮崎県の県民所得	〃	宮崎県
山口県県民所得調査報告	35 年	山口県
山梨県農家の経済	〃	山梨県
広島県統計年鑑	36 年	広島県
徳島県民所得推計結果	35 年	徳島県
大阪府民所得	〃	大阪府
愛媛県工業の実態	〃	愛媛県
国勢調査地方集計報告書	〃	石川県
工業動態統計調査速報	37 年	東京都
常澄村	〃	茨城県常澄村
広報活動	〃	茨城県秘書公聴課
漁船統計表	35 年	茨城県水産施設課
国保の実態	37 年	茨城県国民健康保険団体連合会
工業の地域別発展の現状と工業適正配置の構造	〃	茨城県総合開発事務局
昭和37年春季賃上げ要求妥結状況	〃	茨城県労政課
工業統計調査結果の概況	36 年	茨城県
農業共同化推進資料	37 年	茨城県農林水産部企画課
茨城の福祉行政	35 年	茨城県民生部
春夏作そ菜生産及販売状況	37 年	茨城県農産園芸課

◁定　期　刊　行　物▷

資料名	月号	発行者
日本統計月報	5	総理府統計局
消費者物価指数	5	〃
内外統計季報	6	〃
小売物価統計調査報告	3	〃
労働力調査報告	3	〃
百貨店販売統計月報	4	通産大臣官房調査統計部
出荷，在庫統計速報	6	〃
繊維統計速報	5	〃
紙，パルプ統計速報	5	〃
日用品，皮革統計月報	3	〃
ゴム統計月報	3	〃
窯業，建材統計月報	3	〃
機械統計月報	3	〃
繊維統計月報	4	〃
商業動態統計速報	3	〃
賃金，労働時間および雇用の動き	6	労働大臣官房労働統計調査部
農林水産統計月報	3	農林省統計調査部
水産時報	5	水産庁
都道府県展望	6	全国知事会
農林金融	6	農林中央金庫調査部
経済統計月報	5	日本銀行統計局
国土情報	2	国土計画協会
国民健康保険事業月報	6	厚生省保険局

資料名	月号	発行者
統計あおもり	6	青森県統計課
統計とちぎ	5	栃木県
統計ぐんま	6	群馬県統計協会
東京小売物価動向	5	東京商工会議所
東京卸売物価動向	4	〃
図表による景気動向	5，6	〃
神奈川の統計	6	神奈川県統計協会
交流	5	山梨県
静岡県の統計	4，5	静岡県統計課
統苑	3	岐阜県統計課
統計月報	3	愛知県総務部統計課
統計和歌山	4	和歌山県統計課
統計の泉	6	広島県統計協会
香川統計だより	6	香川県統計課
えひめの統計	6	愛媛県統計協会
統計月報	4	長崎県総務部統計課
統計鹿児島	4	鹿児島県統計協会
広報資料	6	茨城県秘書公聴課
下館市報	6	下館市役所
茨城県主要経済指標	5	日本銀行水戸事務所
生乳，乳製品の生産消費量に関する統計速報	4	農林省茨城統計調査事務所
専売統計月報	3	日本専売公社水戸地方局
出島広報	5	新治郡出島村役場
茨城県気象月報	3	水戸地方気象台
議会時報	5	茨城県議会事務局

経済スポット

経済活動と人口構成（その2）

前号では，都市に人口が集中するためいろいろな都市問題がおきているということをお話ししましたが，それでは，それらの人たちがどのような産業にどれだけ働いているでしょうか。

昭和30～35年就業構造の変化

産業	昭和35年	昭和30年	昭和30年～35年の増加数（△減少）	増加率(%)	産業別割合 昭和35年	産業別割合 昭和30年
	千人	千人	千人	%	%	%
総数	43,691	39,261	4,429	11.3	100.0	100.0
第1次産業	14,346	16,111	△ 1,765	△ 11.0	32.8	41.0
農業	13,216	14,890	△ 1,674	△ 11.2	30.2	37.9
林業，狩猟業	454	519	△ 65	△ 12.5	1.0	1.3
漁業，水産養殖業	676	702	△ 26	△ 3.8	1.5	1.8
第2次産業	12,731	9,220	3,511	38.1	29.1	23.5
鉱業	533	535	△ 2	△ 0.4	1.2	1.4
建設業	2,703	1,783	920	51.6	6.2	4.5
製造業	9,495	6,902	2,593	37.6	21.7	17.6
第3次産業	16,604	13,928	2,676	19.2	38.0	35.5
卸売業小売業	6,870	5,473	1,397	25.5	15.7	13.9
金融，保険，不動産業	796	623	173	27.8	1.8	1.6
運輸，通信業	2,203	1,819	834	21.1	5.0	4.6
電気，ガス，水道業	233	230	4	1.7	0.5	0.6
サービス業	5,171	4,423	747	16.9	11.8	11.3
公務	1,332	1,361	△ 29	△ 2.2	3.0	3.5
分類不能の産業	10	2	8	—	—	—

この表をみてもわかるように，最も増加率の大きいのが第2次産業で，ついで第3次産業の順となっています。なかでも，第2次産業中，建設業は51.6%の増と大きな伸長をみせているのは，企業の設備投資やその他の需要等によるもので，最近の経済発展の大きな根源をなしております。つぎに製造業の37.6%，それから，第3次産業の卸売，小売業の25.5%の増加も，近ごろの消費ブームの波にのつて，それぞれの製品の需要が多かつたことを物語つているわけでありますが，反面，金融，保険，不動産業において27.8%の増加を示しているのとよい対象となつております。

ここで第1次産業についてみると，反対に11.0%の減少を示し，なかでも農業において11.2%の減少となつております。

昨年の農業基本法の制定以来，農業問題の合理化が叫ばれ，いろいろ注目的な行政措置が提案され，ようやく二つの問題を真剣に取り組んでおりますが，ここで，所得倍増計画のなかでは農業経営の育成をどのように考えているかみてみましよう。

これによると，家族経営については農林漁業基本問題

調査会で答申したのと同じような自立家族経営の育成でありますが，ただ違うことは，自立家族経営の規模が倍増計画では2.5haしにている点であります。

この自立家族経営とは，農業労働力平均3人（実人員～通常経営主夫婦とあとつぎ，またはその妻）で，正常な能率をもち，自己資本の蓄積が可能で，資本投下の場として十分な経営規模をもち，農業所得だけで，勤労者世帯とほぼ同程度の生活水準を享受できるというものであります。

現在，勤労者世帯の年間家計費は，世帯員6.5人の場合，40万円前後でありますから，これら勤労者世帯の10年後の収入はほぼ70万円程度と想定できるわけであります。したがつて，それと同程度の家計費を農家が支出できるのには農業粗収益を100万円以上にあげる必要があります。それには，経営耕地面積は平均で約2.5ha必要となるわけであります。

昭和35年の自立家族経営は1.5ha以上で，その農家数は全農家の約1割，59万戸であります。それを，昭和45年度には2.5ha以上の農家を約100万戸育成することがこの計画の構造改善の一つの目標になつているわけであります。

なお，昭和45年度の農家数は約550万戸でありますから，残りの450万戸は，計画期間中には経営規模的には自立家族経営になれないことになります。

所得倍増計画目標年次における家族経営の構成（試案）

経営種類別	1戸当り		全国		
	経営耕地	労働力	戸数	耕地面積	就業人口
	ha	人	万戸	万ha	万人
自立家族経営	2.5	3	100	250	300
非自立経営的家族経営	1.0	2	250	250	500
完全非自立家族経営（農業が従であるもの）	0.5	1	250	100	200
合計	平均 1.1	平均 1.8	500	600	1,000

この農家のうち，経営規模の比較的大きい経営的非自立経営は耕地面積に制約されないで，高い収益をあげることのできる畜産経営あるいは園芸経営を行なうことによつて自立経営の道を進むか，または，協業組織をおし進めて生産性の向上に努めることが必要になつてくるでしょう。

また，経営規模の小さい零細な農家は，将来の工場の地方分散を考慮して兼業所得の増大を図るとともに，農業の協業化や請負耕作という方向に進まなくてはならなくなるでしょう。

この農業の協業問題は，農業法人化，共同経営の発生に伴つて，新らしく生じてきたものでありますが，この10年間の日本農業において全面的協業化が支配的になるとは考えられませんが，農機具の共同利用，畜産，果樹などの特殊な分野における協業化はある程度期待されるところであります。したがつて，この計画のなかでは，特に資本の欠乏と耕地の零細性のために家族経営の単位では生産性の向上が期待することのむずかしい経営体はこの計画期間に協業化の方向を強める必要があると結んでおります。　（経済統計係長　横須賀　弘）

写眞と履歴書

茨城大学教授　高　橋　　栄

人間の社会では学校に入る時にも，結婚の話を進める時にも，あるいは就職の時にも，その人の履歴書と写真とをつけることを通例とする。

たとえばある人の履歴書だけをみせられて，あなたはこの人と結婚しませんか，といわれても，その記載事項はわかるけれども，容ぼうや体格などがどんなであるかがわからないのでは，不安でもありいずれとも判断しかねるわけである。また反対に写真だけをみせられたとしても，容ぼうや体格などはわかつても，どこの誰の子で何才，どんな経歴の持主であるかが不明だとしたら，前と同じように判断しかねることになる。

つまり履歴書と写真とで，一応その人の人となりや現在の身体状況などがわかつて判断の資料となり，その上でなお直接に面談することにもなるであろう。

履歴書も詳しいほどよくわかるし，写真だけでなく身体検査書や医師の健康診断書もつけたり面接までして，よくその人を知ろうとしまた知つてもらおうとする。

求人・求職の選考の場合でも同様のことが行われるのが普通である。第一次書類選考，第二次面接などの別はあつても。

私の履歴書は私の歴史であり，私の写真は私の地理であるということができよう。私の現実の姿をもつともよく知ろうとする点においては，履歴書も写真もその目的においては一致するものである。履歴書と写真との関係はちようど歴史と地理との関係にたとえることができよう。現在の私はこの通りの姿であるが，しかしこの私は他から孤立し切り離された私でもなく，こつ然と天から降つてきた私でもない。○年○月○日何処で某の子として目出度く誕生した時から，今日に至るまでの生活の一切の結果として，今日この時の私となつているのである。よかれあしかれとにかく現実の私がここにいるのである。その現実の姿を一応ありのままにつかもうとする二つの方法が，前述のような履歴書と写真による調査なのである。従つてこれら二つは自分自身を率直にあらわすものであるから，おろそかにすべきものではない。そして誰一人としてよりよい履歴書と写真であるようにねがわない者はいないであろう。

人間個人個人に歴史と地理の両面があり，それらが合してその人の個性を形成しており，これら二面からその人の姿をある程度把握することができると同様に，個人の集団である社会のいろいろの事象においても，正確迅速に把握する早道の方法であろう。

現在の空間，ひろがりを理解するには，遠い昔から長い間人間と関係しあつた歴史性を含んだ環境を理解せねばならないし，ある地域のもろもろの事象も民族・国家を構成する人間集団の所産であり，それらはそれぞれの歴史をもち，その歴史的結果を背負つている複雑な人類社会であることを理解すべきである。そしてそこには自然環境の諸要因も影響して，その地域個有の性格即ち地域性が形成されるのであり，その理解のためには地理の歴史性ということを考慮すべきである。

歴史には歴史性があると同時に地理性がある。歴史の正しい理解にはこのいずれをも欠くことができない。歴史の地理性を考察することによつて，歴史的現実の解明に寄与するところがすくなくない。

ある人の学生時代は第一次世界大戦後の世界的経済恐慌の最中で，学費にこまりながらも何とか卒業した。しかし都市・農村を問わず失業者があふれ，就職難の時代でどんな職業にでもありつければよい方であつた。現在一家の主人としてまた相当の地位にあるひとびとにもこのような地理性のもとに生活し，そのような歴史を背負つている現実のその人の姿なのである。

同様に当時アメリカ合衆国においても失業者は巷にはんらんし，世相はあんたんたるものであつた。時のルーズベルト大統領はニューディール政策をかかげ，その一つとしてT，V，Aの総合開発に着手した。テネシー川はそれまで巨大な怠け者，また破壊をたくましくした巨人であつたが，多目的ダムをつくるT，V，Aの仕事がはじまつてから後は従順なそして無尽蔵のエネルギーを提供するようになつた。現在のアメリカ合衆国の繁栄を理解するには，その基盤にこのような事実のあることを考慮すべきであろう。

以上の例は地理には歴史性があり，歴史には地理性のあることの一端を示したものである。

われわれ茨城県民また茨城県にはやはり履歴書と写真があるはずである。今日の写真はやがて履歴書の中に追加されて行くであろう。われわれ県民は本県のよりよい写真と履歴書をつくるべく努力しようではありませんか。

企業と統計

粉屋は麦を欲しがつている

常陽銀行企画調査室　遠藤晏弘

古い歴史を誇るロンドン王立統計協会の紋章は，刈り取つた麦束，そしてその標語は，「他の者に打穀されるために」というものである。統計は部外者の手によつて打穀されるために……利用されるために作成，提供されるもの，といつた意味であろうが，統計作成者にとつて利用度の高まることが喜ばしいといつても，年々規模の拡大する社会機構を対象に，各種のぼう大な統計調査を実施する担当者の労苦は大変なもの，われわれ部外の利用者は，新しい統計を手に入れる度に，特に県庁等から地方統計資料を入手した場合などは，全く有難いと思う。

殊に，私共の現在行つている仕事の一つが，本県経済に関する諸資料の収集，分析であり，その調査結果を行内外に参考として提供することを意図している関係上，県の統計資料にはいつもよだれをたらしている。

県庁はまさに統計資料の蔵庫であり，刈り取られた麦束のうず高く積んであるところである。私共は，統計課をはじめ，各課を訪問し，飢えた目つきで，麦束を眺めている。

しかし県統計の利用欲の強いのは何も私共ばかりではない。近年官公庁統計は，行政資料としてばかりでなく民間企業の経営資料としてもひろくその利用度を高めつつあり，需要予測，経営計画策定等，企業行動の決定に欠くことのできないものとなつている。「企業の繁栄まず統計の利用から」……これはある県の統計協会特別会員募集のキヤツチフレーズであるが，本県の統計連絡協議会のメンバーをみても，34年末の29団体から36年度末には78団体と丁度3倍の増加を示している。しかも従来のように単に県内団体にとどまらず，東京は勿論，遠く大阪，熊本にまで及んでいる。

たしかに今日，統計の活用なしに企業を運営することは，「原爆に竹槍で立ち向つてゆくようなもの」といつても過言ではなく，官庁統計は，民間においても実践的な利用度を高めつつある。

ところで刈り取られた麦束は，打穀製粉され，パンに焼かれるが，最近は食生活が変化し，パンの需要を増大させている。たとえてみれば私共は企業内での粉屋で，企業の食べるパンのもとの粉をつくるところ，しかし麦がなければ粉はつくれない。まず原料の麦を供給して欲しい……これが第一の願いである。精粉技術が稚拙なため，またうまいパンを焼かせることができないでいるがそれでも統計には飢えており，あれこれとあさり歩いている。官庁統計はよりよき行政のための基礎資料とすることが第一義であろうが，民間の統計需要にもこたえて統計の充実，供給を図つてもらいたいということである。これは何も私共のみの立場から言うのではなく，委託統計のみでなく，本県にマツチした県単統計の充実，拡大をはかり，アツプ・ツー・デートな統計調査を行うことは，行政面でも今日もつとも重要なことと思われる。またそれらの結果公表によつて，官民一体の県発展態勢がとり得るのではないだろうか。

次に，統計は言うまでもなく精度の高さが第一に要求されるが，それにもまして要望されるのは，統計結果の早期公表である。本県でも35年より工場進出が活発化し既存工業の規模拡大と相まつて工業化が促進されるなど地域経済が目まぐるしく変化を示しつつある。そうした変化の度合を早期にとらえるためにも統計の迅速性は重視されねばならずそれは行政面ばかりでなく，民間側にとつても適応態勢を整えるのにぜひ必要なことである。タイミングを失せざるような公表を行つて欲しいものである。そのための機構の整備，機械化等は，「統計が行政の科学化，計画化の出発点」であることを考えれば，当然施政者の最初に心を致すべきことと思われる。

以上実施統計の充実と，結果公表の迅速性，及びそれに加えて県で実施されるあらゆる統計の集中化（理想的には統計実施機構の集中体系化，それが困難であれば少なくとも資料の集中，資料センターの設置等）が私共にとつても，もつとも望まれることであるが，これは私共民間の統計利用者の，県庁統計に対する依存が高いために出てくる注文であり，勝手な言い分はお許しいただきないと思う。とにかく，私共粉屋にどんどん麦束を供給して欲しい……これが最大の願いである。

市　町　村　の　横　顔

<十　王　町>

1. 概　況

鈴木町長

水戸駅から常磐線下り平行に乗つて，1時間ほどでここ多賀郡十王町川尻駅につく。この町は古くから「高の国」として古書に止められているように，各所に古墳群や穴居跡が今でも見られ，先住民族の安住の地としたことがしのばれる。昭和30年2月11日に，櫛形村，黒前村，高萩市の一部が合体合併し十王村となり，昭和31年1月1日町制施行し，十王町となつた。町名を「十王」としたことは旧櫛形，旧黒前の両村間を貫流する十王川の名に因んだものだそうで，また一郡一町というのは県下でもただ一つの存在であります。地理的には，東は太平洋及び日立市川尻町に，西は久慈郡に接し，南は日立市，北は花貫川を隔てて高萩市に境いしている。西北方阿武隈の支脈が山林地帯で，これに源を発する十王川，小石川の流域及び海岸地帯に耕地が開け，また人家も密集している。耕地は川尻駅付近の平担地に多く，山岳地帯にあつては谷間や山脈に田畑が点在している。

交通には，一部山間地域を除いて比較的恵まれているが，更に最近県北の産業地帯の開発に伴つて道路の整備が行なわれ，交通機関が発達しつつある。町の中央部を十王川に沿つて県道川尻大子線が東西に走り，県道日立勿来線が川尻駅西側より大字山部を経て高萩市に通じ，また，海岸線に沿つて南は日立市に北は高萩市に，国道6号線が通じており，川尻駅を中心にバス，列車が高萩市及び日立市を結んでいる。最近では山間地帯が多いという地理的条件もあつて，タクシーの発達がめざましく川尻駅前には数台の車が客を待つているのが見られた。

2. 産　業

この町の産業を知ろうとするとき，まず土地の地目別面積をてがかりとしてみることがよいと思う。田は5.05km²，畑は3.3km²山林は実に41.48km³で総面積の57.47%を占め，更に原野が13.37km²となつている。従つて山林資源には非常に恵まれており，林産物の生産状況をみると，36年には用材4,259m³，木炭21,000俵，薪材1,081m³，竹材648束が生産されている。また，同年の造林面積は，杉37.6ha，松15.8ha，檜7.5ha，くぬぎ1.5ha，雑木9.6haとなつている。また山麓には東京電力の川尻発電所がある。更に高萩炭砿株式会社高萩鉱業所櫛形砿俵炭砿株式会社十王炭砿の二つの炭砿があり，従業員は約1,000人，年間出炭量132,000t，その金額434,530千円が生みだされているが，しかし，最近のエネルギー革命によつて，石炭産業も斜陽化の一途をたどつており，今後の発展が危ぶまれている。

農業就業人口は，昭和35年の国勢調査によると1,922人で，全就業人口の37%を占めているが，農家のうち，専業農家は約⅓で，残りの⅔は兼業農家であり，近頃では後継まで家を出る始末で，農業労働力人口の確保ということと，農業経営の合理化という二つの問題に直面している。それというのも，近くに日立市という大工業都市がひかえているためでしよう。

そこでこの町の鈴木町長さんに，今後の町政の重点を伺がつてみました。まず第1にこの町が日立市という大消費人口を有する隣りにあるという，地理的条件を生し農作物特に野菜，果物，しいたけなどの特産物の生産を奨励し，その出荷にあたつては共同出荷を行い，生産と流通をスムースに行なう。第2に山岳部の牧場では従来の馬の生産にかえ，和牛の生産を強力に推進する。更に林道の建設，山林資源の保護育成を図る。また今年度は初めての試みとして，町営住宅20戸を建設する予定であり，今後毎年町営住宅の建設を行ない，将来はベツドタウンとしての性格を備えた町となるとのことであつた。

3. 教育文化

小学校は4枚で児童数2,000名，このうち児童数42名という上黒坂分校がある。中学校は昭和35年4月1日，櫛形中学校と黒前中学校とを統合して十王中学校となり，校舎も写真にみるように，鉄筋コンクリート2階建の近代的なもので，普通教育室18，特別教室6，管理関係教室9と設備もととのつております。この工事は，総額71百万円を要し，35，36年の2カ年間の継続事業として行なわれた。この統合中学校のほかに高原分校がある。

大正11年10月12日文部省指定の天然記念物，いぶき山いぶき樹叢が大字伊師富士越にあり，俗にいぶき山と呼んでいる。また御富士山ともいわれ，高さ15m位の円錐状の丘にうつ蒼として樹囲2m位のもの6，7本あり，昔は最大樹囲25mの巨木もあつたという。

昭和37年4月1日現在のこの町のテレビ受信契約者数は87で，普及率は3.7%と県平均40.5%を大きく下まわつている。それというのも山岳部のため映像が悪いためでその対策として近いうちにNHKのテレビ中継所が町に建設される予定で，これが完成すればテレビも相当に普及し，良いにつけ，悪いにつけ，マスコミの影響を受けることでしよう。

（十王中学校）

人　間　雑　話 (3)

茨城大学教授　塚　本　勝　義

山本有三作〔真実一路〕の中に，三人の典型的男性が出てくる。その一人は義平だ。彼は某会社の会計課長をしている。いかにも役柄にふさわしいきちんとした性格の持主である。義理にあつい，誠実そのもののような男だ。学費を補助して貰つたり，就職の世話になつたりした過去を忘れず，睦子の父親に頼まれれば，恋人の胤を宿している睦子を嫁に迎えて，厭な顔ひとつしない。やがて生まれた志津子，次に生まれた自分の子義夫の二人を文字通り，何の隔てもなく愛し得る父である。絶対に間違いのない男といえる。

しかし，妻の睦子にとつては，決して好ましい夫ではなかつた。うちとけられぬ窮屈な夫だ。確実だが夢のない夫だ。欠点がない――という大きな欠点を持つ夫だ。信頼できるが楽しくない夫だ。だから彼女は，ついにいたたまれず二人の子を残して家出してしまつた。義平型の男性は自由奔放な女性にとつては明らかに苦手なんだ。人生を，ただ安全にのみ生きようとする散文的女性にとつては理想的男性だろうが，浪漫的な詩的女性（妙な言葉だが）にとつては，たえられない男性だといえる。

家出した睦子が同棲した男の隅田は，義平とは対象的な人物である。彼は無熱光線発明に躍起になつてる。いくら実験をくりかえしてみても予想する結果が出ない。研究資金を出している連中は彼をぺてん師と罵倒する。けれども彼は，いささかもひるまず，ついには狂気して自殺するに至る。正に夢の実現に生涯を賭けた男だ。不安な男だ。危険な男でさえある。しかし，睦子はこの隅田を本当に愛して，彼のあとを追つてやはり自殺した。義平型の人から見れば，隅田は正気の男に見えないだろうし，睦子も馬鹿な女に映る。しかし，この見方は，安全に生きることを標準にした批判だ。人生は，安全に生きたからいいではあるまい。その他にも，いくらでも生き方はある。ひとすじに生きた隅田の生き方だつて，十分ひとつの生き方として認め得る。たしかに失敗の生涯だつたとしても，人生への斬り込みは深い。睦子という女にも命をかけて愛された。命をかけて愛される男なんてめつたにあるものでない。

妻の必需品になつてる夫はくさるほどある。必需品だから大切にされよう。しかし愛されてなんかいない。大切にされることと愛されることとは相異する。大切にする気持には，いつも利害勘定が裏打ちされてる。だからサラリーが上がると喜ぶ。ボーナスが出るとはしやぐ。真実に愛する心には打算がない。計算していたんでは命は投げ出せない。

愛されて生きるのが本当だ――という標準で二人を批判するなら，義平は不幸な男で，隅田はすばらしく幸福な男だといえる。

睦子の弟素香は，義平とも隅田とも異なる人間だ。義平は堅実に生きた。隅田は奔放に生きた。型は違うが共に人生に対して積極的だつた。ところが素香という男は傍観者だ。批判者だ。ある意味では中世の隠遁者にも似ている。義平の真情もよく知つている。隅田の苦衷も判り過ぎるほどわかつてる。睦子の悲劇的生涯も胸が痛くなるほど肯定される。だから志津子に向かつて〔君のお母さんは，ある意味では幸福な人だね。〕と言つたのだ。素香は何もかも知つているんだが積極的になれない。いや，知つているから積極的になれないんだ――といつた方があたつている。知り過ぎた男だ。知り過ぎているから恋愛も成り立たず，四十になるのに未だ独り暮しをしている始末だ。義平と隅田を〔行為の人〕と言い得るなら，素香は〔考える男〕と言い得る。やはり，ひとつのタイプである。

人の世には行為者が必要だ。どしどし仕事をやつてくれなくては運転が止まつてしまう。だが，突つ走る人だけでは，甚だ危険だ。方向に狂いがなければ時代の躍進が期待されるが，頭が変だつたら，とんでもない所に落ち込む。

素香型の考える男も，どうしても必要だ。ぶらぶらしながら絶えず考えてくれなくては困る。そして，とかくのぼせ性の行為者ないし活動者の頭の狂いを鋭く指摘してくれる必要がある。能なしの怠け者のようにも見えようが，どうしてどうして，世の中を健全に発展させるためには貴重な人間だ。

今の世の中には行為者が多過ぎる。活動家があふれている。だからにぎやかだ。しかしその割に前進がにぶい見当ちがいの無駄骨折りばかりしているからだろう。せめて百人に一人ぐらいは瓢々とした批判者が欲しい。素香型の人物にも，はずんでサラリーを出せる世の中にしたいものだ。